

4 認知症状のある人への対応方法を知りましょう

～困った行動には理由があります～

○財布や通帳を盗んだと家族や友人を疑う

なぜ？

自分でしまい込んだことや、その場所を忘れてしまうのは認知症の中核症状（記憶障害や認知機能低下など）によるものです。そこに不安や葛藤が生じ「盗られた」という周辺症状（妄想）が生まれます。その人が置かれている状況や周囲との対人関係が誘因になるとされます。

認知症の人は、失敗を認めようとしなため自覚はありません。身近で世話をしてくれる人に対して症状をより強く表すという特徴があります。

対処

「盗られた」と騒いでいる人に、それが事実でないことと訂正しても意味はありません。また、相手の攻撃に対してまともに反応、反論しても、妄想はより根強いものになるだけです。財布などを探すときにも、なるべく自分で見つけられるように誘導しましょう。

疑われている人は、心に余裕を持ってストレス解消に努めましょう。「家族会」などで悩みを聞いてもらうと良いでしょう。



○ガスの火を消し忘れる

なぜ？

認知症の人は、記憶障害のために、鍋を火にかけたことも、火を消さなかったことも忘れて覚えていません。

長年主婦として食事の支度をしてきた人に、調理を禁止する事は役割を奪うことになり、かえって認知症を悪化させることになります。

対処

認知症の人には、火が出る器具を使えないような工夫をします。調理により何度も鍋を焦がすなど、火事を起こす危険がある場合は、ガス器具などの撤去も必要かもしれません。電磁調理器に変更する方法もありますが、新たに操作を覚えるのは困難な場合もありますので早い段階での対応が必要です。

火を使う作業は無理でも、認知症の人にできる作業（米を研ぐ、野菜を刻む、食器を洗うなど）をしてもらいましょう。

○車の運転をやめようとしな

なぜ？

アルツハイマー型認知症の人は、自分が病気になっているという認識に欠けるところがあり、軽度から中等度の人は身体的な症状がなく、運転に支障がない為、危険性を感じないようです。

また、運転することに生きがいを感じていたり、日常生活に支障があるなど運転をやめられないという事情もあります。



対処

道路交通法の改正で、認知症と診断された人の運転は禁止になっています。

運転をやめてもらうためには、医師から病名と症状を説明をしてもらい、本人が病気について理解を深めながら運転をあきらめるよう仕向けていくほうが良いと考えられます。

どう説得しても運転がやめられない場合は、車のカギを隠すなどの強硬手段も止むを得ないこともあるでしょう。その際には、日常生活への支援の検討が必要です。

※「運転卒業証制度（山口県警）」

運転免許を自主返納をされると、「運転卒業証」と「運転卒業サポート手帳」（65歳以上の方）、「運転経歴証明書」の交付を受けることができます。「運転免許サポート手帳」を協賛企業・団体に提示することで、各種割引等の様々な支援を受けることができます。

問合せ：山口県警察本部 TEL 083-933-0110
光警察署 TEL 0833-72-0110

○急に攻撃的になったり、暴力をふるう

なぜ？

認知症の人が暴力をふるうときは、どんな心理状態かを考えてみましょう。

相手がしている事が何のためかわからない、相手の行動が今の自分の気持ちにそぐわない行動で理解できない、相手から暴力をふるわれそうな感じがしている、など…

また、言葉がうまく出ない事で、ふがいないと感じたり、日常生活で、不安、焦燥感、被害感がありストレスを感じて暴力をふるうことがあります。

対処

暴力がはじまったときは、介護者はまず「落ち着いて」冷静に対応します。身の危険を感じたら、介護者はその場を離れましょう。

無理やり力づくで押さえようとすると、本人はますます興奮します。

原則的には、静かに本人に寄り添う気持ちで対応し、認知症の人によい感情を残すようにします。介護者が緊張したりおびえると、切迫感を敏感に感じとり、いらだつ事がありますので注意しましょう

○デイサービスに行くのをいやがる

なぜ？

はじめての場所に行く時は誰でも緊張しますし、ストレスも感じます。

知らない場所で知らない人たちに囲まれて過ごすことに本人が不安を感じる事もあるでしょう。

施設での対応に不満があったり、デイサービスでの行事が自分にあわないと感じている場合もあります。

また、被害妄想により家族が、自分をじゃまにしてサービスを利用させていると思っているかもしれません。

対処

最近は、様々な目的をもったデイサービスがありますし、お試し利用も可能です。本人がいきいきと過ごせるデイサービスを見つけると良いでしょう。

人と交わることが苦手な人もいますので、最初は家族が付き添って参加し、最後は一人で行けるようにするなどの工夫も必要です。

デイサービスは介護者の介護負担を軽減するサービスでもありますので、本人の気持ちに留意しながら積極的に利用しましょう。

○食事をしたばかりなのに、まだ食べていないと言う

なぜ？

認知症になると、脳にある満腹中枢（おなかがいっぱいになったことを知らせる）が障害されることがあり、本来もっている食欲のコントロール装置が機能しなくなります。

また、記憶障害のため、食べたことそのものを忘れてしまう場合があります。

このようなことから、食べたばかりなのにまた催促するといったことが起こります。

対処

もの忘れがある人に、「今食べたばかり。」と説明しても効果がありません。否定すると、目を盗んで食べたりすることもあります。「今作ってます。」「わかりました。」と肯定的な返事をして様子を見たり、少量のお菓子やお茶などをあげたりする方法もあります。お腹をこわすなどがなければ、あまり神経質にならなくて良いでしょう。過食はいずれ治まります。

まだご飯食
べてない！



お茶を飲んで、
少し待ってて
ね。



○変なものが見えたり音が聞こえると近所にどなり込む

なぜ？

「幻覚」は認知症の初期から中期にあらわれますが、加齢のために目や耳が悪くなっていて、錯覚している事もあるので確認が必要です。

実際にはない事を、本人は現実的に今起こっている事実として見たり、聞いたりしています。

不安を感じている場合が多いので「見えない」「聞こえない」と否定されると、自分を否定された、わかってもらえないと悪い感情だけが残ることになり、認知症が悪化する事があります。

対処

認知症の人には、「見えない」「聞こえない」と言っても納得はしません。いっしょに不安の原因を探すふりをして「大丈夫」と肯定する方が安心します。

幻覚は発熱・脱水など体調の悪化により出現することもあるので体調の確認、視力の低下、聴力障害の有無のチェック、また、本人の訴えをよく聞き適切に対応する事が重要です。隣人等には、症状を説明し理解してもらおうと良いでしょう。

○すぐ、家の外に出ていく（徘徊）

なぜ？

場所の見当識障害があるため、自分の家にいることがわからず、不安感から「家」に帰ろうとします。また、「病院に行こう」と目的をもって家を出ても、記憶が障害されているため、途中でどこに行くのかわからなくなってしまうこともあります。

若い頃の自分に返っていて、「実家に帰る」とか「会社に行く」などと言って出ていくこともあります。

対処

本人は、「思い」があって外に出て行っているため、理屈で説得しても通じません。納得しやすい言葉で、うまく“演じる”ことが大事です。「会社に行く」と訴える人に「今日はお休みですよ」と答えたらうまくいったということもあります。迷子、熱中症、転倒、交通事故などへの配慮をしましょう。服に名前を縫い付けたり見守りのグッズなど、介護保険、福祉などの支援を受けましょう。ご近所の方に、見守りへの協力をお願いしてみましょう。「ひかり見守りネット」に登録しましょう。(36ページ参照)

おかしいね？私の家はどこじゃったろうか？



私と一緒に帰りましょう！